

◇「戦国武将の土木工事」(2020 年、豊田隆雄著、彩国社)

都市計画・まちづくりを歴史的・通時的に見てみる場合、戦国武将が領地をどのように治め、開発して経済力をつけ、軍事的に強化していったかは興味が尽きない。それぞれの武将はお家の存続をかけて短時間で知恵を絞ったわけである。その歴史的街づくりの骨格が今に至っている都市は多い。

織田信長の安土城城下町整備、今川義元の道路整備、西国武将の大陸貿易拠点としての博多整備、長曾我部元親の森林開発ビジネス、明智光秀の福知山整備、徳川家康の駿府の都市づくり・・・それぞれどのような発想で、そのような専門家集団を使ってスピーディに進められたのか。武将はときには土地勘のないところの領地開発を進めている場合も多い。そのような場合、いかなる専門家集団、今でいう建築家、土木技師、大工などの職人をどのように集めて決断を下していったのか、はなはだ関心がある。この本はそのような戦国武将の領地開発について、29 項目、1 項目 5 頁から 10 頁くらいのボリュームでまとめられている。大変気楽に読みやすい本で、学生さんにはお薦めである。興味がわいた項目からランダムに読み進むにつれていつの間にか読了といった感じで読み進むことができる。(2021 年 7 月 4 日記)